

研究計画書(プロトコール R2-1)

令和2年10月1日

所属 茨城県土浦保健所
所属長 緒方 剛 殿

所属 茨城県土浦保健所
研究責任者 緒方 剛

下記の研究をしたいので研究計画書を提出いたします。

1 研究課題名

新型コロナウイルスの検査診断の遅れとその後の倍加時間について

2 研究者職氏名

(1) 研究責任者 緒方 剛

(2) 研究実施担当者 緒方 剛, 田中 英夫(大阪府藤井寺保健所)

3 研究予定期間

令和2年10月1日～令和3年3月31日

4 研究の目的

新型コロナウイルスの検査診断の遅れの要因およびその後の倍加時間への影響を明らかにする。

5 具体的な研究計画

令和2年の新型コロナ流行第一波における、各都道府県の患者の性、年齢、発症から診断までの日数(報告の遅れ)、感染経路、およびその後の都道府県内の倍加時間への影響について、都道府県などのウェブサイトより情報を把握し、分析する。

6 研究の背景及び経緯

新型コロナウイルス第一波においては、「発症後4日ほど待ってから受診、検査を受ける」ように国から啓発文書が発出されたことなどから、報告の遅れの日数については都道府県間で差が見られた。そこで、報告の遅れに影響を及ぼした要因を調査することが重要と考える。

また、報告の遅れがその後の地域の感染拡大に影響与えたか否かについて、調査することも重要である。

7 研究方法

研究デザイン: 横断的研究および生態学的研究

調査対象: 新型コロナウイルス第一波において感染者数の多かった都道府県

調査方法: 都道府県およびその他の自治体のウェブサイトから、公表されている情報のみを収集する。

想定母集団とサンプルサイズの定義: 感染患者・300-400例 都道府県 5-10

調査内容: 患者の性、年齢区分、発症日、検査診断日、感染経路

調査データの収集方法: ウェブサイトに掲載されている匿名患者の、公表されたデータのみを使用する。

データ管理方法：匿名化された公表データのみを使用するので，特段の管理は不要と考える。
分析方法：統計ソフト R による診断の遅れの要因のロジステイック解析，倍加時間に関する地理的多変量解析

8 研究対象者の保護

匿名化された公表データのみを使用する。

9 研究によって得られる結果及び貢献度

保健所における行政検査実施に当たり，診断の遅れに及ぼす要因，および診断の遅れがその後の地域の流行状況に及ぼす影響を分析することにより，流行への有効な介入手段についての知見を得ることができる。

10 研究結果の公表方法等

学会発表，雑誌投稿

11 研究実施報告書の提出時期

令和3年3月31日